（第３種郵便物認可）

中学生自殺未遂

いじめ防止 外部連携を

第三者調査委、田辺市に提案

田辺市内の中学校の男子生徒(14)が2012年12月に自殺を図り、意識不明となっている問題で、19日に市へ提出された第三者調査委員会の報告書では、いじめの事実を確認すると同時に、「直接かつ単独で原因となったとは考えられない」との考えも示された。ただ、要因の一つにいじめがあったともしており、調査委員会は、学校と外部の専門機関との連携などのいじめ再発防止への提案も行った。

市教委は昨年2月、男子生徒が自殺を図り、部活動などでいじめがあったことを発表した。

市が同6月に設置した第三者調査委員会は、弁護士や臨床心理士、大学教授ら5人で構成。生徒、家族、学校関係者ら計80人以上から聞き取り調査を実施した。

報告書によると、男子生徒は特定のあだ名で呼ばれるなどのいじめを受け、「次第に孤立感を強めていった」と考えられる」と説明。同時に、テストの成績など学習面でも悩んでいたとして、「挫折感を深めていったと思われる」とも指摘した。

真砂市長（左）に報告書を手渡す宮島委員長（田辺市役所で）

こうした経過に触れながら、「自殺の原因は様々な要因が複合し、長い時間をかけて徐々に危険な心理状態に陥るのが一般的」としている。

報告書には再発防止の提言も盛り込まれ、いじめ防止と自殺防止を統合した教育の展開や、クラスやクラブだけで対応せずに学校全体として受け止め、必要に応じて外部の専門機関とも連携するよう求めている。

真砂充敏市長は、宮島繁成委員長から報告書を受け取った後、記者会見を行い、「提言を真剣に受け止め、市教委が作成中のいじめ防止基本方針に、いじめ防止条例制定の検討も含めるなど反映させたい」と話した。

これに対し、男子生徒の家族は「報告書を理解するには十分な読み込みが必要で、本日の意見表明は差し控えたい。市長には二度と息子のような悲しい出来事が起きないよう適切な対応をお願いしたい」とのコメントを出した。